いませゴルバチョフさん

й Михаил Сергеевич Горбачёв!
пожаловать на Окинаву!
аха от всей души приветствуют Вас!

こそ沖縄へ。私たち那覇市民は心からあなたを歓迎します。

那覇市役所での翁長市長との対談にのぞんだゴルバチョフさん（市長応接室）

おおぜいの市民が出迎え

市役所中庭に人の渦

那覇市では、市制施行80周年を迎えた今年、記念事業として元ソビエト連邦共和国大統領でノーベル平和賞受賞者のミハイル・ゴルバチョフさんを本市にお招きした記念講演会の計画を進めてきました。

東西の冷戦構造に終止符を打つという歴史的な偉業を果たしたばかりでなく、いまなお精力的に世界平和、地球環境の保全のために多くの国際的な活動をつづけておられるゴルバチョフさんを那覇市にお招きすることで、若い世代の人々に人類の歴史について、世界平和の実現へ向けた、私たち21世紀を生きる者としてのめざすべき方向性について真剣に学んでほしいと考えたからです。

２００１年11月14日午後３時40分。ゴルバチョフさんは娘さんのイリーナさんを伴って、私たち那覇市民の前に姿を現しました。開南小学校の児童から贈られた大きな花束を手に、にこやかに自ら市民に手を差し出して握手をする気さくな人柄に、ロシア国旗の掲げられた那覇市役所中庭に1時間も前からできた人垣が、さらに大きな渦となってゴルバチョフさんを包みこみました。

東京から翁長那覇市長の案内で那覇空港に降り立ったゴルバチョフさん一行

翁長市長との対談のため那覇市役所を訪れたゴルバチョフさんをおおぜいの市民の歓迎の人の渦が取り囲みました

ゴルバチョフさんから贈られたメッセージの色紙を手にする翁長市長。市長はその場で「レリーフにして記念碑として永遠に残します」と約束しました

略歴（ミハイル・ゴルバチョフ）

1931年生まれ。52年ソ連共産党入党。55年モスクワ大学法学部卒。出身地の農業担当の党官僚となり、80年に政治局員。「改革派」として頭角を現し、85年３月ソ連共産党書記長に就任。89年５月新設のソ連最高会議議長、90年３月には憲法改正によって初代ソ連大統領に就任。この間、「東西冷戦終結」を宣言。経済・政治各面に及ぶ改革運動「ペレストロイカ」を推進し、グラスノスチ（情報公開）を進めた。レーガン米大統領と４度にわたり首脳会談、中距離核戦力ＩＮＦの全廃やアフガン戦争を終結させ兵力を撤退させた。90年ノーベル平和賞を受賞。91年12月独立国家共同体が発足したのにともない大統領を辞任。

那覇市長　翁長雄志

偉大なノーベル平和賞受賞者を迎えた喜び

私たちの世代に限らず、大部分の人々の共通認識として「キューバ危機」を憶えています。特に沖縄の人々にとっては、固唾（かたず）を飲む思いで緊迫する世界情勢を見つめていました。アメリカの懐ともいえるキューバに旧ソヴィエトの攻撃用ミサイルの発射場建設が進行していたため、重大な危機感をもったアメリカのジョン・Ｆ・ケネディ大統領がキューバに対して海上交通隔離措置、つまり海上封鎖を行う署名をしました。米ソ両大国は一触即発の状況下にあり、世界中が第三次世界大戦、それも核戦争への突入を予感して緊迫感に包まれていました。沖縄は特別な立場でした。島中が震える思いで米ソの対立を見つめていました。と、言うのは当時、旧ソ連の大陸間弾道弾は沖縄の米軍基地を標的にしているとのもっぱらの話がありました。いざ、戦争となると「沖縄が真っ先にやられる」ということでした。沖縄中の人々がソ連を意識せざるを得ない時代でした。１９６２年のことです。私は未だ12歳の少年でしたが、少年心ながらにも周辺の大人に混じって緊張していたという思いがあります。あれから約40年の歳月が流れましたが、「キューバ危機」以降も、アメリカと旧ソ連を軸とする東西冷戦構造は続いていました。

私は昨年12月に、那覇市民の付託を受けて第28代の那覇市長として就任をいたしました。その間、選挙におきまして常に有権者の皆様に対し、「20世紀はイデオロギーの世紀であり、戦争の世紀であった。21世紀は、長く続いた東西対決の時代を乗り越えての新しい世紀にしたい」と申し上げてまいりました。沖縄には過去50数年にわたって米軍基地が存在してきました。しかしながら、世紀をまたいで続くかと思えた東西冷戦構造は、ある一人の人物の登場で終焉を迎えました。その人物こそが、ミハイル・ゴルバチョフ元ソヴィエト大統領閣下でありました。ソ連共産党書記長、大統領時代を通じて、ペレストロイカ、グラスノスチ、民主化、新思考外交を実践するなかから、東西冷戦構造に終止符をうったのでした。そのことがノーベル平和賞受賞ということで世界から広く称賛をされました。今年４月に、ゴルバチョフ氏が「沖縄を訪問して、県民の皆さんとの交流を図りたい」とのメッセージに接し、是非とも那覇市にお招きをして、ご講演をいただくとともに那覇市民と親しく接して頂きたく来覇を強く希望いたしました。その実現のために努力を払ってまいりましたが、ここにゴルバチョフさんのご講演が実現したことに対し感無量の思いが致します。

沖縄戦、それに引き続く長年の米軍施政下の時代を経た沖縄ですが、それゆえに平和を強く希求する県民性があり、多くの県民・市民が待ち望んだ講演会でありました。

私たちは過去を学び、今日という時点で未来を語り合いたいのです。これが歴史であり、私たちが目指す方向なのです。

講演会場には、時代を担う多くの高校生や大学生が参加をしました。いま、世界は再び、ニューヨークにおける卑劣なテロ事件以降、アフガン情勢も加わり暗雲が立ち込めています。このような時代であるがゆえに若い世代には世界史のページを書き換えた偉大な人物に接してもらいたいと常々から考えていました。

多くの市民がこの催しを通じて、平和について、世界について考える一助になればと希望をしています。